SUPER FORMULA

STAGE

superformula.net/sf2

2018 Vol.05

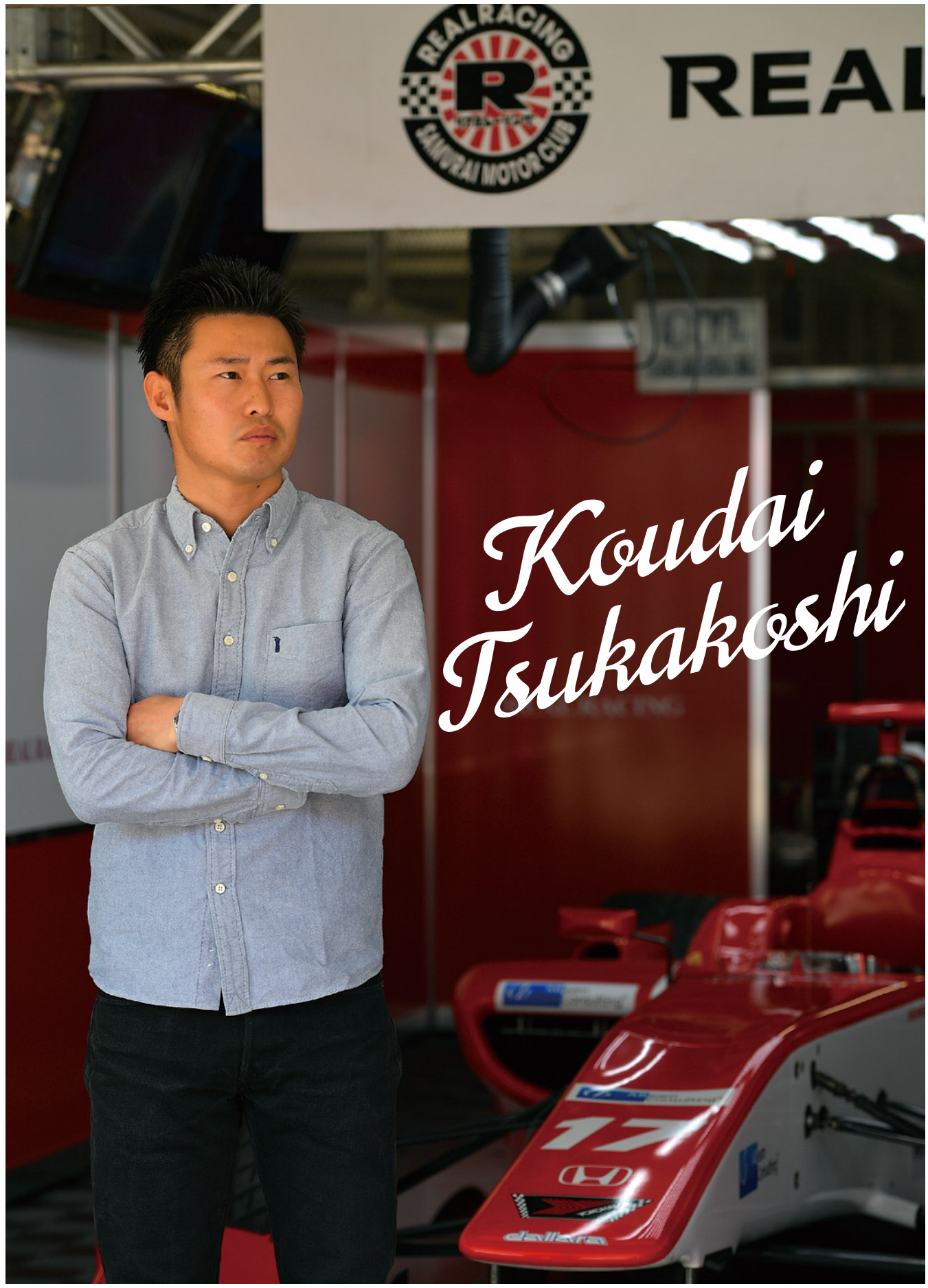
INDEX

2018 出場ドライバー紹介 ②③
今大会の見どころ ②
松田次生が語るコースガイド ③
SHORT INTERVIEW ④
チーム探訪 ここがウチの自慢です! ④
インフォメーション ④

Published JAPAN RACE PROMOTION, INC.
2-3-25 Kudan-minami Chiyoda-ku Tokyo

本紙への広告掲載のお問い合わせは ――
株式会社 日本レースプロモーション
〒102-0074　東京都千代田区九段南2-3-25
☎03-3237-0131
https://superformula.net/sf2

JRP Japan race promotion inc.



協力: REAL RACING

INTERVIEW NO.5

REAL RACING ドライバー

塚越広大

Koudai TSUKAKOSHI #17

「来年、日本に戻ってもシートはないから」。2008年、ユーロF3のシーズンを終えた塚越広大は、奈落の底に突き落とされる感覚を生まれて初めて味わった。これまでも、いつもギリギリの所で活動してきたという思いはある。だが、まさかこんな風にしてドライバー人生が終わってしまうかも知れないとは……。まさに青天の霹靂だった。

1986年11月20日、栃木県今市市（現・日光市）に生まれた塚越は、“海が大好き”という母が唱歌から取って“広大”という名前を名づけられた。この世に生を授かった彼の前には、まさに広くて大きな無限の可能性があった。レース好き、クルマ好きだった父に連れられて、物心つく前から通ったサーキット。小学校に上がる頃、仙台ハイランドで見たグループAレースで、星野一義選手（当時）の縁石4輪跨ぎに憧れる。“あんな風にクルマを操ってみたい。色々なクルマに乗ってみたい”。塚越の心はレースに惹きつけられた。

そんな長男を思って、父が見つけてきたのがキッズカート。当時、子供が乗れるカートはまだ多くなかったが、ラー飯能というサーキットに子供用のスクールがあり、当時そこで実施されていた「スーパーチップスレーシングスクール」に入校。まだレースに出られる年齢ではなかったため、ただただ練習に通っていたという。そんな日々を3年ほど過ごした後、塚越はレースデビュー。長野のラリーキッズ伊那でのレースで2位となる。

1999年、中学生になった塚越は、「プロになるにはどうすればいいのか」ということを考え始める。そのためには毎年スカラシップを獲って、できるだけ予算を使わずにステップアップするしかなかった。その道筋の中で多くの人に助けられた。自分の所属チームではなかったにも関わらず、道上龍の父でカートショップを経営する道上佐堵史氏のバックアップで全日本選手権に出場。有力チームKRPのオーディションにも合格して、鈴鹿選手権シリーズへと駒を進める。2002年にMFCクラスでタイトルを獲得したことで、SRS-F（鈴鹿サーキット・レーシングスクール・フォーミュラ）へのスカラシップを得た。まだ免許が取れない年齢だったため2004年に入学となったが、その前年には元F1ドライバーの鈴木亜久里が率いるARTAのオーディションに合格。全日本カートのFSAクラスでもタイトルを獲得した。

塚越はSRS-Fでもスカラシップを得てフォーミュラ・ドリーム（FD）に参戦を開始する。本格デビューとなった2005年には前人未到の全戦優勝を達成。一躍その名をレース界に轟かせた。

そして2005年のスポット参戦を経て、2006年には全日本F3選手権にステップアップ。2年間を戦った後、英国のマノー・モータースポーツからマカオF3GPに出場し、2位表彰台を獲得する。子供の頃からの夢であるF1ドライバーになるには「マカオで好成績を出し、ヨーロッパに渡ってレースしなければ」と考えていた塚越は、この結果によってチャンスを掴み、ユーロF3へと戦いの場を移した。さらなるステップアップを目指し、GP2のテストにも参加。好タイムをマークした。ところがそれとほぼ時を同じくして、世界的経済危機の発端となった“リーマン・ショック”が発生。ホンダがF1撤退を決め、塚越もヨーロッパでの活動を断念せざるを得なくなった。

その窮地に唯一与えられたチャンスが、リアルレーシングでのフォーミュラ・ニッポンテスト。他のドライバー数人とともに3日間実施されたテストで最終日の午後だけ走行機会を与えられた塚越は、ここでチーム内のトップタイムをマークする。そして翌年のシートを勝ち得た。そこから2年間、リアルレーシングで戦った後、一時はダンディライアンに移籍。2012年にはチャンピオンタイトルにあと一歩と迫っている。その翌年からは再び古巣であるリアルレーシングに移籍。これは「チームを強くするためにどれぐらい自分が貢献できるのかっていうチャレンジでもあったし、何もなかった時にチャンスをくれたっていう恩返し」でもあったという。

それから6年目。塚越は今もリアルレーシングとともに走っているが、残念ながら勝ち星を挙げることはできていない。「回りからは“もういいんじゃないか”って言われることもありますし、他のチームに移ったら、もっと成績が残るかも知れない。でも1回チャレンジし始めたことなので、自分の力を含めてやり遂げないといけないという思いでやっています。シートを失う恐怖もなくはない。ただ、一度何もないっていう状況に陥っていますし、成績を残していたってその先本当にどうなるか分からない。でも、それって別にレースだけの話じゃないですよね。だから次もあるだろうとは思わないように。1戦1戦、1周1周がもしかしたら最後かもしれないという意識は常にあります。だから、例えそうなったとしても、悔いのないように。もっとあしておけばよかったと思わないような時間を過ごしているつもりです」。

Series Partner HONDA TOYOTA　Series Supporter YOKOHAMA　Promotion Partner HITACHI Inspire the Next 日立オートモティブシステムズ　SONY RX0　NINKI-ICHI 人気酒造　Broadcasting Partner BSフジ　J SPORTS

2018 ENTRY LIST

全日本スーパーフォーミュラ選手権 エントリーリスト

Twitter : Twitter　Facebook : Facebook　Instagram : Instagram　★は今季スーパーフォーミュラ初参戦

JMS P.MU/CERUMO・INGING

ジェームス ピーエムユーセルモインギング

1 石浦宏明

Hiroaki ISHIURA

1981年4月23日生／東京都

JMS P.MU/CERUMO・INGING SF14

RANKING 3　POINTS 13

昨シーズンのチャンピオン。2年ぶり2度目の王者となった。今季はタイトル連覇がかかっているだけに、もてぎは重要な一戦となる。

https://ameblo.jp/ishiura/

2 国本雄資

Yuji KUNIMOTO

1990年9月12日生／神奈川県

JMS P.MU/CERUMO・INGING SF14

RANKING 7　POINTS 6

2016年に初優勝を含む2勝を挙げて王座に就いた現役では最年少のチャンピオン。昨年は第3戦富士で初のポールポジションを獲得した。

http://yujikunimoto.com

KONDO RACING

コンドー レーシング

3 ニック・キャシディ

Nick CASSIDY

1994年8月19日生／ニュージーランド

ORIENTALBIO KONDO SF14

RANKING 2　POINTS 21

昨年スーパーフォーミュラにデビューし、第6戦SUGOでポールポジションを獲得。2年目の今年は第3戦で2位、前戦で初優勝といま波に乗っている。

https://twitter.com/nickcassidy_

4 山下健太

Kenta YAMASHITA

1995年8月3日生／千葉県

ORIENTALBIO KONDO SF14

RANKING 15　POINTS 1

2016年に全日本F3チャンピオンとなり、昨年スーパーフォーミュラに進級。3度の入賞を果たし、第4戦もてぎではポールポジションを獲得した。

http://kentayamashita.jp

DOCOMO TEAM DANDELION RACING

ドコモチームダンディライアンレーシング

5 野尻智紀

Tomoki NOJIRI

1989年9月15日生／茨城県

DOCOMO DANDELION M5S SF14

RANKING 6　POINTS 9

2014年にデビュー。その年のSUGO大会で初優勝を果たし、一躍注目の存在に。今季は第3戦SUGOでポールポジション獲得と速さは一級だ。

https://twitter.com/tomoki_nojiri

6 松下信治 ★

Nobuharu MATSUSHITA

1993年10月13日生／埼玉県

DOCOMO DANDELION M6Y SF14

RANKING —　POINTS 0

2015年からF1直下のGP2（17年にF2と改称）で活動。今シーズン、スーパーフォーミュラにデビューした期待の若手で、その実力が注目される。

https://www.nobuharu.com

UOMO SUNOCO TEAM LEMANS

ウオモ スノコ チーム ルマン

7 トム・ディルマン ★

Tom DILLMANN

1989年4月6日生／フランス

UOMO SUNOCO SF14

RANKING 9　POINTS 5

負傷したレギュラードライバーのピエトロ・フィッティパルディに代わり4戦連続の出場。今季は世界耐久選手権とフォーミュラEに参戦している。

https://www.facebook.com/tomdillmannofficial/

8 大嶋和也

Kazuya OSHIMA

1987年4月30日生／群馬県

UOMO SUNOCO SF14

RANKING 14　POINTS 2

昨年、古巣となるチームルマンから5年ぶりにスーパーフォーミュラに復帰。第5戦オートポリスで3位入賞と、名門チーム復活に全力で挑む。

https://twitter.com/oshima_kazuya

TEAM MUGEN

チーム・ムゲン

15 福住仁嶺 ★

Nirei FUKUZUMI

1997年1月24日生／徳島県

TEAM MUGEN SF14

RANKING —　POINTS 0

2016、17年とGP3で活躍し、今季スーパーフォーミュラにデビュー。F1直下のF2とダブル参戦のため、開幕戦以来、4戦ぶりの出場となる。

https://twitter.com/nirei_fukuzumi

ここに注目! 》》》

第5戦 ツインリンクもてぎの見どころ

後半戦に向け、タイトル争いに重要な一戦

梅雨入り、梅雨明けともに例年より早く、その後は"異常気象"とも言われるほどの酷暑に見舞われた今年の日本列島。7月末には台風12号、8月上旬には台風13号と、立て続けに台風が接近・上陸し、各地に被害も出ている。だが、その台風が通り過ぎた後も、再び酷暑という繰り返し。今回、全日本スーパーフォーミュラ選手権第5戦が開催されるツインリンクもてぎも、かなり厳しいコンディションとなるはずだ。もてぎ戦はもともと1年で一番暑くなることで知られるが、今年はそれに輪をかけて暑くなる可能性もあり、ドライバーやマシンにも過酷な大会となるだろう。

このレースはタイトル争いの行方を占う上でも重要な1戦。すでにシーズン折り返しを過ぎ、ここから後半戦に入るが、前戦・富士の結果によってチャンピオン争いが激しさを増してきているからだ。ここまで22ポイントを獲得してリーダーのポジションを守っているのは山本尚貴。その山本に対して、わずか1ポイント差と迫っているランキング2位のニック・キャシディ。この2人が現段階では頭ひとつ抜け出している感じはあるが、ディフェンディングチャンピオンの石浦宏明も、富士からは好調の波に乗り始め、山本とは9ポイント差。まだ挽回できるだけの余地はある。

さて、そんなもてぎ戦は、横浜ゴムがタイヤ供給を開始してから最初に2スペックのタイヤを投入した大会でもある。過去の大会では、予選、決勝ともに2スペックのタイヤがあったからこそ生まれたドラマも多い。もともとはストップ&ゴーのサーキットでオーバーテイクが難しいコースと言われてきたが、どのタイミングでどのスペックのタイヤを装着しているかによってスピードに大きな差が生まれた。それにより昨年も数々のオーバーテイクシーンが生み出されている。

予選ではQ1がミディアム、Q2からがソフトということになるが、もてぎではシーズンオフの合同テストが行われておらず、今季の新しいソフトタイヤでもてぎを走るのはどのドライバーも初めて。昨年モデルよりもグリップが高いという新ソフトタイヤでどれぐらいまでラップタイムが伸びるのかというのは、予選での見どころとなる。

決勝ではグリッドの上位勢はソフトタイヤでスタートするのではないかと見られるが、それをどこまで持たせられるかがポイント。逆にグリッド下位に沈んだドライバーがミディアムタイヤでスタートして引っ張り、燃料が軽くなったところでソフトタイヤに交換して、劇的に追い上げるということも可能なだけに、各チームの戦略に注目だ。

今回は小林可夢偉と中嶋一貴がWEC（世界耐久選手権）との日程重複のため欠場。代役として、それぞれ中山雄一、ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラがスポット参戦する。また、F2との日程の兼ね合いで第2戦から第4戦まで欠場が続いていた福住仁嶺が久々に登場。こうしたドライバーたちがどのような走りを見せるのかというのも、今回の注目ポイントとなるだろう。

昨年、山下健太がポールポジションを獲得し、もてぎを得意としているKONDO RACING。チームにとってホームレースと言ってもいいTEAM MUGEN。そして昨年、決勝での強さを見せたP.MU/CERUMO・INGING。さらに、そろそろ優勝が欲しいITOCHU ENEX TEAM IMPULやVANTELIN TEAM TOM'S、DOCOMO TEAM DANDELION RACINGといった強豪チームたち。それぞれのチームやドライバーの思惑が交錯し、激しく火花散るレースが展開されるはずだ。

Team Pit — ピット割り

Pit	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
		SF19		JSB1000										1/2	

Pit	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	JSB1000	15/16		JSB1000	36/37		JSB1000	7/8		JSB1000	19/20		JSB1000		18

Pit	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45
	JSB1000	3/4		JSB1000	5/6		JSB1000		17	JSB1000	64/65		JSB1000		50

《《《 1st Corner

Starting Grid — スターティンググリッド

自分でGrid表を完成させよう!

	2 No.	4 No.	6 No.	8 No.	10 No.	12 No.	14 No.	16 No.	18 No.
1 No.	3 No.	5 No.	7 No.	9 No.	11 No.	13 No.	15 No.	17 No.	19 No.

16 山本尚貴
Naoki YAMAMOTO
1988年7月11日生／栃木県

TEAM MUGEN SF14

RANKING 1 / POINTS 22

2013年のチャンピオン。ホンダ勢の中心的存在で、昨年こそ優勝もポールポジションもなかったが、今季は開幕から2連勝と強さを見せている。

http://www.naoki-yamamoto.com

REAL RACING
リアル レーシング

17 塚越広大
Koudai TSUKAKOSHI
1986年11月20日生／栃木県

REAL SF14

RANKING 13 / POINTS 3

2012年にチャンピオンを争い、惜しくも2位に。翌13年から現チームに移り、今年で6年目のシーズン。チームに初優勝をもたらすことができるか。

http://www.tsukakoshikoudai.net/

carrozzeria Team KCMG
カロッツェリア チーム ケーシーエムジー

18 中山雄一
Yuich NAKAYAMA
1991年7月25日生／東京都

KCMG Elyse SF14

RANKING — / POINTS —

世界耐久選手権（WEC）参戦のため欠場する小林可夢偉に代わり、今季初出場。2014年から16年まで在籍していた古巣KCMGからの参戦となる。

http://yuichinakayama.jp

ITOCHU ENEX TEAM IMPUL
イトウチュウエネクス チーム インパル

19 関口雄飛
Yuhi SEKIGUCHI
1987年12月29日生／東京都

ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF14

RANKING 4 / POINTS 11

2016年にスーパーフォーミュラにデビューするなり、その年に2勝し、昨年も2勝とこの2年間では最多の勝利を誇る。目指すは初のチャンピオン獲得だ。

https://twitter.com/yuhisekiguchi

20 平川 亮
Ryo HIRAKAWA
1994年3月7日生／広島県

ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF14

RANKING 8 / POINTS 6

2013年にスーパーフォーミュラにデビュー。16、17年はスポーツカーやGTレースで活躍し、今年3年ぶりに復帰。第2戦で初のポールポジションを獲得した。

https://twitter.com/ryohirakawa

VANTELIN TEAM TOM'S
バンテリン チーム トムス

36 ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ
Joao Paulo de OLIVEIRA
1981年7月13日生／ブラジル

VANTELIN KOWA TOM'S SF14

RANKING — / POINTS —

世界耐久選手権（WEC）に参戦のため欠場する中嶋一貴に代わり2年ぶりの出場。2010年のフォーミュラ・ニッポン王者で、2016年まで参戦していた。

https://twitter.com/jpdeoliveira

37 ジェームス・ロシター
James ROSSITER
1983年8月25日生／イギリス

VANTELIN KOWA TOM'S SF14

RANKING — / POINTS 0

2013にデビューした時と同じ強豪チームから、今季2年ぶりにスーパーフォーミュラに復帰。苦戦が続いているが、後半戦で巻き返しなるか。

http://twitter.com/rossiterracing

B-Max Racing team
ビーマックス・レーシング・チーム

50 千代勝正 ★
Katsumasa CHIYO
1986年12月9日生／東京都

B-Max Racing SF14

RANKING — / POINTS 0

今年スーパーフォーミュラにデビュー。これまではGTレースで主に活躍し、ブランパン耐久シリーズでは日本人初のシリーズ王者に輝いている。

http://www.chiyo-katsumasa.com/

TCS NAKAJIMA RACING
ティーシーエス・ナカジマレーシング

64 ナレイン・カーティケヤン
Narain KARTHIKEYAN
1977年1月14日生／インド

TCS NAKAJIMA RACING SF14

RANKING 10 / POINTS 4

2001年にフォーミュラ・ニッポンに参戦。その後F1で戦い、14年から再びスーパーフォーミュラに。今年41歳の現役最年長ドライバーである。

https://twitter.com/narainracing

65 伊沢拓也
Takuya IZAWA
1984年6月1日生／東京都

TCS NAKAJIMA RACING SF14

RANKING 11 / POINTS 4

2012年にタイトル争いを演じ、ランキング3位。14年にはGP2に参戦した。15年から再びスーパーフォーミュラにフル参戦し、今年チームを移籍した。

http://www.takuya-izawa.com/

松田次生が語る ツインリンクもてぎガイド

▸ しっかりしたブレーキングと加速力がポイント

もてぎは基本的にはストップ＆ゴーサーキット。その中で、中速コーナーのS字カーブ、曲がりながらのブレーキングをしなければならない最終のビクトリーコーナーなど、少し“イヤらしい”コーナーがあります。なので、どのコーナーにクルマのセットアップやドライビングを合わせていくかというのが、一番重要なポイントですね。経験から言うと、ブレーキングでしっかり4輪を使って止まれることと、曲がった後のトラクション（駆動力）が一番欲しいところ。それをセットアップでどう作っていくかです。

第1〜2コーナーはひとつのコーナーとして考え、ステアリングを戻しながらアクセルを踏んでいきますが、第3〜4コーナーは2つ違うコーナーが組み合わされている感じ。第3コーナーはブレーキで突っ込みますが、第4コーナーに向けてはステアリングを切りながらトラクションを掛けなければいけない。早めのショートシフトをしていくドライバーが多いです。

第5コーナーはブレーキをなるべく遅らせたいけど、頑張り過ぎるとトラクションがかけられないですし、その先のS字カーブまで響いてきます。でも、ギリギリまで攻めないとダメなので、ブレーキングのポイントを探るのが難しいですね。第4コーナーの立ち上がり次第では、オーバーテイクポイントにもなります。

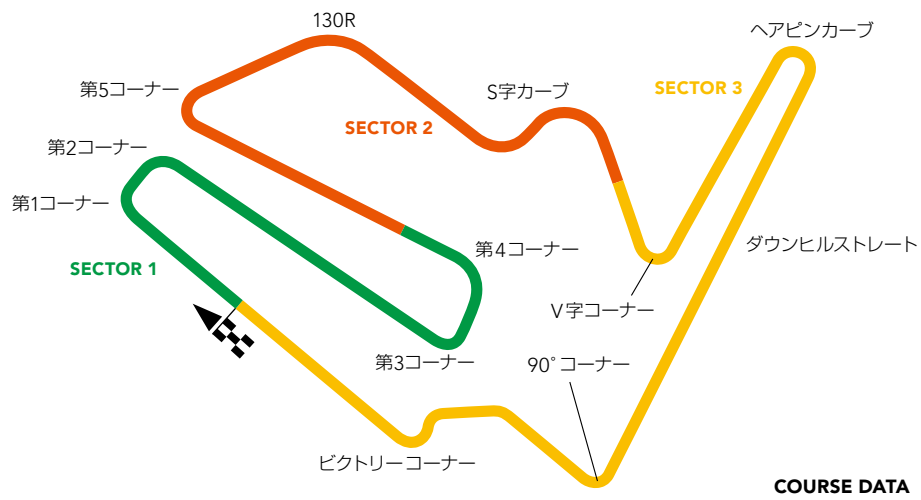
S字は1つ目ではらみすぎると、2つ目でアクセルを踏むのが遅れてしまうので、1つ目は真ん中あたりのラインから入って2つ目重視。フォーミュラで2台横並びに入るのはかなり難しいと思います。

その先のV字コーナーでオーバーテイクをしかけるなら、S字の2つ目で上手く前のクルマに付いていくことが大切ですね。V字は雨が降ると水が溜まってタイヤがロックしやすいコーナー。S字からの立ち上がりで少し左にG（横荷重）が残りつつ、切り返しで入って行くところなので、どうしてもイン側がロックしやすいです。S字の2つ目をコンパクトなラインで立ち上がって、早くアプローチすることが大切ですね。

そこからつながるヘアピンがオーバーテイクポイントにもなるので、突っ込むというよりは立ち上がり重視です。トラクションを掛けた時に、ホイールスピンさせないというのが鉄則ですが、そこはドライバーのアクセル操作にかかっています。ヘアピンは早めに入って長くクリッピング（コーナーで加速ができるようになる場所）につくドライバーもいれば、結構奥にクリッピングを取るドライバーとに分かれますね。ソフトタイヤにグリップが充分あってコーナリングスピードを上げていきたい場合は、長くクリップについた方がいいでしょうし、ミディアムの場合は90度コーナーまでのスピードが上がるように立ち上がりのトラクションを重視して奥にクリップを取るなど、同じドライバーでもタイヤによって走り方が変わってくるかも知れません。

そこからダウンヒルストレート先の90度コーナーですが、ここは下っているので“止まらない”印象。ただ、速度が中途半端になると立ち上がりでアクセルを踏むポイントがすごくズレますし、最終のビクトリーコーナーまでのスピードが乗らなくなる。姿勢変化が起きやすいですし、どうクルマの向きを変えていくかが重要です。

立体交差をくぐってビクトリーコーナーに向かうゆるい左コーナーは、曲がりながらビクトリーコーナーのブレーキングに入っていくので、リヤがナーバスなクルマはキツいでしょうね。このコーナーも姿勢を崩しやすい複合コーナーで、左にGを残しながら切り返して行くので、結構難しい。アンダーも出したくないですし、リヤの安定感も欲しいですね。



COURSE DATA
全長：4.801km
コースレコード：1'31.888 野尻智紀（DOCOMO DANDELION M40S SF14）
2017.8.20（2017 SUPER FORMULA 第4戦）

過去3年の結果（優勝者｜PP）

2017	P.ガスリー (TEAM MUGEN SF14)	山下健太 (FUJI×raffinee KONDO SF14)	2016	関口雄飛 (ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF14)	関口雄飛 (ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF14)	2015	石浦宏明 (P.MU/CERUMO・INGING SF14)	石浦宏明 (P.MU/CERUMO・INGING SF14)

SHORT INTERVIEW
第 4 回

ジェームス・ロシター（VANTELIN TEAM TOM'S）

夢だったトムスからの参戦

今シーズン、トムスでの参戦が決まったときは飛び上がるほどうれしかった。去年、アンドレ（·ロッテラー）と会ったとき、彼から『もしかしたら、来年のスーパーフォーミュラに出られないかもしれない』と聞いたんだ。それで僕らは舘（信秀監督）サンと一緒に三人で食事をし、次のシーズンの話をしたというわけ。で、トムスからの参戦が叶ったんだ。

トムスからスーパーフォーミュラに参戦することは、僕にとっての長年の夢だった。それがついに実現したんだから、もう最高でしょ！ このチームでレースをし始めて、もうかれこれ6年目。SUPER GTで参戦することになって初めてチームと一緒に仕事をするようになったけれど、もうここは僕にとって大きな家族みたいだね。チームスタッフのみんなが僕のことをよく知っているし、僕自身もこのチームでいろんなことを勉強しながら“大きく”なったんだ（笑）。そういう意味でも、仕事仲間なんだけど仲がいい友達が集まっているような感じがするね。

2種類のタイヤは、タイプの異なる女性!?

今シーズン、一番意識していることはヨコハマタイヤの使い方。なにしろヨコハマタイヤでは1シーズンしか乗ってないから。ソフトとミディアムのタイヤキャラクターをキチンと把握するのが難しいんだ。タイヤってまるで女性みたい。個性が違う女性が二人いて、こっちはこんな感じ、でもあっちはそうじゃないなぁ……、みたいなね（笑）。つまり僕は今、ヨコハマという“新しい女性”を一生懸命分析中なんだ。トラブルに遭遇しないよう、どう接したらいいか探っているところだよ。

一方、このレースをリラックスしながらチャレンジできるようになったと思うようにもなった。以前はそうじゃなくて、“このレースで勝つんだ！成功するんだ！”っていう気持ちが先行していたけど、今はどうすることが自分にとってベストなのか、落ち着いて考えてレースができるし、そうすることでチームにベストな結果をもたらすことができるということに気が付いたんだ。そうやってリラックスできるとしっかり仕事に取り組めるし、それができれば自ずと結果がついてくると今では思えるね。

僕の自慢は、豊富な経験値

このレースで僕の強みが活きるのは、経験値だと思う。WEC（世界耐久選手権）などの耐久レースやF1のテストドライバーもやって、そこで

得た知識やたくさんの経験を活かして色々とアプローチできるからね。

僅差の戦いが続くこのカテゴリーでいい結果を出すには、とにかくパーフェクトなレースウィークを過ごすことが大事。まずはソフトとミディアムの両タイヤでいいクルマのバランスを見つけ、チームと組み立てた戦略に自信を持って挑んでそのすべてを出し切る。そうじゃないと、実力伯仲の戦いを制することは難しい。それこそが一番のチャレンジだと思うね。

観戦中の情報収集は

リアルタイムな情報収集には……
Twitter

SUPER FORMULA公式アカウント
@super_formula

TOYOTA GAZOO Racing
@toyota_gr

HondaモータースポーツLive
@hondajp_live

公式ハッシュタグは「**#sformula**」

記事やダイジェスト動画は……

●Facebook
スーパーフォーミュラオフィシャルfacebook
https://www.facebook.com/superformula.official

YouTube
YouTube公式チャンネル
https://www.youtube.com/user/superformulavideo

レースの状況を把握するなら……
公式アプリ

順位、ラップタイム、セクタータイム、位置情報などがひと目でわかる無料アプリ。場内放送も聞けて非常に便利！

http://superformula.racelive.jp/

Download on the App Store　GET IT ON Google Play

リザルトやコメントを見るなら……
オフィシャルサイト

走行結果やインタビュー、その他リリースなど。随時最新情報を掲載！

https://superformula.net/sf2

スーパーフォーミュラ公式オンボード映像DVD「DRIVER'S EYES 2018シーズン VOL.1」9月発売!

熾烈なバトル＆勝利への鍵となるピットストップ対決!
オンボード映像で第1戦鈴鹿から第4戦富士まで徹底分析!

主音声：松田次生（解説）
　　ピエール北川（実況）
副音声：走行音のみ

価格：2,700円（税込）

2017シーズンのお求めは場内売店か公式サイトへ!

全日本スーパーフォーミュラ選手権 第5戦 公式プログラム販売中

モビプラザ、スーベニアもてぎ、グランツーリスモカフェショップ、ホンダコレクションミュージアムショップで販売しています。

価格：1,000円（税込）

CLUB F
SUPER FORMULA OFFICIAL FAN CLUB

オフィシャルファンクラブ CLUB F
新規会員受付中!

豪華入会特典やチケット販売など、ファンクラブならではのサービスを予定！ 詳しくはオフィシャルサイト（https://superformula.net/sf2）内のファンクラブページをご覧ください

チーム探訪 ここがウチの自慢です!

その5 | REAL RACING

スーパーフォーミュラに参戦中のチームには、レーシングドライバー出身の監督が多くいますが、その中のひとり、金石勝智監督が率いるREAL RACING。2009年から日本最高峰のフォーミュラレース（当時はフォーミュラ·ニッポン）に挑戦中のチーム自慢とは!?

パドックからチームピットの中を伺うと、大きなパソコン画面の前で作業中のスタッフの姿が（①②）。チームマネージャーの南元由紀さんによると、アビームコンサルティング株式会社のスタッフが、チームのデータ分析や活用の支援を請け負っているそう。「現場には5名のスタッフがお見えですが、車載やコースサイドからの映像をもとにデータを分析·解析していただき、どうすれば速く走れるのかを考えてくれています。エンジニアやドライバーにデータを反映させてもらうためにミーティングにも加わってもらい、いろいろなことを即座にやっていただいています」。

共同作業で効果があったのは、ドライバーからフィードバックされたコメントの解釈とのこと。「よりわかりやすくなりました。“可視化”という一番の目的がうまく行われていると思います。スタッフによると、データロガーだけではフォローしきれなかった部分がより細分化されて理解できるようです」。

チームからのリクエストにも随時更新することで豊富なデータが揃い、現場での作業がスピードアップされたという。「グラフや画像があるので、理解するのが早くなりました。限られた時間でいかに作業をするかが大事なので、とても助かっています。チームの“秘密基地”という感じです。ただ、アナログからいきなりデータに変わったので、僕はついていけてないですが……」と金石勝智監督（③）は苦笑いするが、「これまで私自身がドライバーのセクタータイムを手書きしてドライバーに渡していたのですが、データを全部出してもらうようになってからすごくラクになりました（笑）」と南元さんにとっては、作業軽減につながったようだ。

また、効率化されたチームの中で作業をするメカニックたちを束ねる“チーフメカニック”もチーム自慢のひとつ。「今年からチーフに就任した桑原悠です（④）。入社8年目の若いチーフですが、うちのチームの生え抜きです。金石監督からは檄を飛ばされていますが、とにかく真面目。若いスタッフからは慕われ、年上スタッフからも可愛がられているんです」。中堅チームとして新たなチャレンジに取り組む中、さらなる伸び代を見せてくれそうだ。

amsc
AUTOBACS Motorsports Conference
オートバックス モータースポーツ連絡協議会

KRS
KTEL RACE SERVICE

がんばろう!
九州
We are all together
がんばれ！熊本！

TV放映／映像配信

BSフジ 決勝戦生中継『2018スーパーフォーミュラ第5戦ツインリンクもてぎ』

ピエール北川による場内実況がサーキットの臨場感をそのまま伝え、ピットの緊迫した状況をモータースポーツジャーナリスト高橋二朗と、東(ひがし)美樹がピットからレポートします。第5戦の解説には鈴木亜久里を迎え、レースを鋭くまたわかりやすく解説をします。
○放送時間：8月19日（日）午後2時00分～3時55分

BSフジ『スーパーフォーミュラ GO ON!』

今シーズンから、「スーパーフォーミュラ」の情報を完全網羅する番組としてリニューアル。SF14ラストイヤー、全戦2スペックタイヤ制など話題が豊富な2018シーズン。そのレースダイジェストをレギュラーコメンテーターの小林可夢偉と解説の松田次生が徹底分析。また、ゲストコメンテーターとして登場する現役ドライバーやチーム関係者、レース好きの著名人などと共にホットなニュースを深堀りする。番組の進行役は本田朋子アナ。ナレーターは今年で番組3年目となる乃木坂46の樋口日奈が担当します。
○放送時間：9月1日（土）　午後11時～11時55分
　　9月2日（日）　午前２時～２時55分（再）

J SPORTS

全7戦の予選と決勝の模様をライブ中継。再放送やレースダイジェスト番組も放送します。
○放送時間：8月18日（土）　午後2時20分～ 予選生中継　J SPORTS 1
　　8月19日（日）　午後1時45分～ 決勝生中継　J SPORTS 1

GYAO!

大会終了14日後よりスーパーフォーミュラの決勝レースを全戦オンデマンドにて無料配信。
http://gyao.yahoo.co.jp/sports/

TIME SCHEDULE タイムスケジュール

※スケジュール、内容、出演者等は予告なく変更、中止になる場合があります。

RACE レース

8月18日(土)

8:20- 8:50	F3 公式予選
9:05- 9:25	N-ONE 公式予選
9:40-10:40	SUPER FORMULA フリー走行
10:50-11:35	ピットウォーク
12:00-12:30	JSB1000 予選（Q1）
12:40-13:00	JSB1000 予選（Q2）
13:35-	N-ONE 決勝［7Laps］
14:30-14:50	SUPER FORMULA 公式予選（Q1）
15:00-15:07	SUPER FORMULA 公式予選（Q2）
15:17-15:24	SUPER FORMULA 公式予選（Q3）
16:10-	F3 第10戦 決勝［14Laps］
17:00-17:30	キッズピットウォーク

8月19日(日)

8:25-	F3 第11戦 決勝［14Laps］
9:20- 9:40	JSB1000 フリー走行
10:00-10:30	SUPER FORMULA フリー走行／スタート練習
10:35-10:50	新型マシンSF19デモラン
10:50-11:35	ピットウォーク
12:15-	JSB1000 決勝［23Laps］
14:15-	SUPER FORMULA 決勝［52Laps］
16:30-	F3 第12戦 決勝［20Laps］

EVENT イベント

8月18日(土)

8:30- 8:45	オープニングステージ　MC：水村リア、今井優杏
8:50- 9:05	ツインリンクもてぎエンジェルステージ　出演：もてぎエンジェル　MC：水村リア
9:10- 9:30	くま吉ハイ&ローゲーム　MC：今井優杏
11:40-12:00	トヨタドライバートークショー　ゲスト：関口雄飛選手、J.ロシター選手　MC：今井優杏
12:05-12:25	SFドライバートーク　ゲスト：福住仁嶺選手、中山雄一選手、J.P.デ·オリベイラ選手　MC：水村リア
13:00-13:20	トヨタ若手監督トークショー　ゲスト：立川祐路監督 片岡龍也監督　MC：今井優杏
13:25-13:45	SF予選直前トークショー　ゲスト：浅見理美　MC：水村リア
13:50-14:30	レースクイーンステージ　MC：水村リア
15:30-15:50	トヨタトリビアクイズ大会　MC：今井優杏
16:00-16:20	JSBライダートークショー　ゲスト：予選上位3選手
16:30-16:45	SFビギナーズトーク　ゲスト：東美樹、YOKOHAMA promotilonal models 近藤みき、鳴村なか　MC：水村リア
17:00-17:30	テクノロジーラボラトリー　両角岳彦、浅見理美、スペシャルゲスト

8月19日(日)

8:00- 8:15	オープニングステージ　MC：水村リア、今井優杏
8:20- 8:35	SFビギナーズトーク　ゲスト：東美樹、YOKOHAMA promotilonal models 近藤みき、鳴村なか　MC：水村リア
8:40- 8:55	ツインリンクもてぎエンジェルステージ　出演：もてぎエンジェル　MC：水村リア
8:55- 9:35	レースクイーンステージ　MC：水村リア
9:40-10:00	くま吉ハイ&ローゲーム　MC：今井優杏
10:30-10:50	JSBライダートークショー
11:10-11:30	トヨタ監督トークショー　ゲスト：舘信秀監督、星野一義監督、近藤真彦監督　MC：今井優杏
11:35-11:50	SFポールポジションドライバートーク　ゲスト：ポールポジション獲得ドライバー　MC：水村リア
11:55-12:15	トヨタドライバートークショー　ゲスト：N.キャシディ選手、平川亮選手　MC：今井優杏
12:20-12:35	SF決勝直前トーク　ゲスト：浅見理美　MC：水村リア
12:40-13:00	トヨタトリビアクイズ大会　MC：今井優杏
15:55-16:25	テクノロジーラボラトリー　ゲスト：優勝エンジニア 両角岳彦 浅見理美　MC：水村リア
16:45-17:00	SF優勝ドライバートーク　ゲスト：優勝ドライバー　MC：ピエール北川
17:05-17:30	平成30年7月豪雨災害支援チャリティーオークション　MC：ピエール北川　アシスタント：水村リア